

『ジャーナリスト』
「月間マスコミ評」

2021年11月号

菅首相退陣から自民党
総裁選、新政権発足、直
後の解散・総選挙へとい
う流れをどう読むか。メ
ディアの対応を含め、多
くの問題が指摘できる。

自民は議席を減らし
たものの、単独過半数を
維持し、与党で絶対安定
多数を確保した。自民は
首相交代で過去の失政を
隠し、総裁選テレビ報
道で露出を続けたこと
で、支持をつなぎ止めた。
メディアの総裁選・選挙
報道とともに、自公の選
挙協力、連立政権の検証
が求められる。

憲法が蹂躪された戦
前の昭和史に詳しい保
阪正康氏は、「哲理なき
現状維持」の先行きに恐
ろしささえ感じると指
摘する(朝日11月5日)。
コロナ禍による国民の
政治意識の変化、現状
維持を覆すような選挙
後の動きを注視したい。

野党5党は選挙区
の7割超で候補者を一本
化して接戦に持ち込んだ。
市民と野党が共闘して、
政権交代に挑む初めての
選挙として一定の成果
はあった。ただ立憲は
選挙区で議席を増やした
ものの、比例区で減ら

して代表辞任。共産も議
席を維持できなかった。
参院選に向け野党共闘
の進め方を地域ごとに
点検して、足もとからの
立て直しが急務だ。

維新は議席を4倍に
増やした。与野党どちら
にも共感できない有権
者(毎日1日)を引き寄せ
た。今回躍進したが、
2014年の衆院選で獲得
した41議席と同じで、
もとの勢力に戻った形
だ(朝日10日)。維新は
大阪の19選挙区のうち
15選挙区で議席を得た。
ごまかしの宣伝やマス
コミの維新「迎合」だけ
でなく、首長や議員を選
挙のたびに増やし、地道
に集票マシンを築いて
きたことによる。比例区
で全国的に議席を増やし、
「野党」第2党となり、
国会での存在感を高
めてきた。維新は選挙後、
国民と改憲論議などで
連携を図る。憲法改正の
国民投票を参院選と同
時に実施するよう主張
して、改憲の先導役を担
おうとしている。

改憲だけでなく、大軍
拡の動きにも目が離せ
ない。日経9日に「敵基
地攻撃」の明記検討と大
きな見出し記事。政府は
国家安全保障政策の改定
に向けて、与党との協

議を年内に始める。ミ
サイル発射拠点をたたき
「敵基地攻撃能力」保有
が焦点だ。

自民は選挙公約に防
衛力の大幅強化をめざ
し、防衛費の「国内総生
産の2%以上」、10兆円
以上を設定。改憲と軍拡
の動きから目が離せない。



(2021年11月30日)